

会 議 録

会議の名称	平成19年度・浮き城のまち景観賞審査委員会	
開催日時	平成19年12月19日(水) 開会：午前9時00分 閉会：午後2時20分	
開催場所	行田市産業文化会館2階・第2会議室	
出席者(委員)氏名	今村武蔵 唐沢実 朽木宏 木暮照子 滝沢布沙 筒井雅人 八代克彦 (五十音順・敬称略)	
欠席者(委員)氏名		
事務局	(まちづくり推進課) 小林課長・鶴木主幹・青山主査・黒澤主査・西尾主事	
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一次審査通過10作品の発表 ・ 同10作品の現地審査および最終審査 ・ 第3回浮き城のまち景観賞受賞作品の決定 	
会議資料	(資料名・概要等) 次第、一次審査結果表、現地審査メモ用紙、応募作品の推薦理由、浮き城のまち景観賞表彰要綱、実施要領、審査基準、応募用紙、審査対象作品位置図、審査対象作品一覧、推薦票、委員名簿	
その他必要事項		
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名押印
	平成20年 3月 日	Ⓜ

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
<p>八代委員長</p> <p>事務局</p> <p>朽木委員</p>	<p>(一次審査結果発表および現地審査を経て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終審査に入る前に確認させていただく。実施要領第 5 の 6「審査員が、景観賞対象候補作品に関与している場合は、審査に参加しないものとする」とある。これについて審議をお願いする。 ・ 昨年度の委員会における話し合いで、関与の有無やその度合いについては、委員各自の判断に任せることとなったものであり、今年度も同様の形でご判断いただきたい。昨年度の話し合いでは「自らが所有者」など極端な場合を除けば、審査に加わっていただいで支障ないだろう、という結論に達している。 ・ 特定非営利活動 (NPO) 法人の代表として忠次郎蔵の運営に携わっている。 <p style="text-align: center;">(所有者ではないため、昨年度同様、審査に加わることとされる)</p> <p style="text-align: center;">(その他の委員からの申し出は無し)</p>
<p>八代委員長</p> <p>筒井委員</p>	<p>総評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最終審査の方法は、昨年度同様、初めに委員の皆さんから総評をいただき、その後、投票とさせていただきたい。それでは、筒井委員から総評をお願いする。 ・ 今年度の応募作品を重点的に見て回った。景観というのは見栄えであり、建築賞では決してないので、やはり道路など公の場所からしっかりと見えるかどうかという点を重視した。また、看板等の屋外広告物については、概して景観を損なっている例が多いため、厳しく審査してみた。看板は商業活動上欠かせないものなので、作ってはダメということではなく、周辺環境などに配慮が為されているかをチェックした。 ・ 今回の審査対象はどれも古い建物、或いは古い建物を元に使用しているものがほとんどであったと思う。行田市の場合、新しい建物の応募が基本的には一つもないという現状で、その中で差をつけていかなければいけないと思っている。

<p>滝沢委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の住宅などは、今後あれをどうしていくのだろうかと考えた。景観賞を受賞して、それを糧に何かやっていけるのかと心配する面もあり…。賞をもらったことによって今後どのようにしていこうという、将来的な「意気込み」が見えるものが、景観賞に相応しいのかなと考えている。この応募用紙の文章と写真からはなかなかそこまで読めないのだが、将来性がないと、せっかく授賞したのに数年後にはもう壊していましたとか、そのようなことになっていても困るので、そういった部分も採点のポイントとさせていただいた。 ・ あとは、どれも古い建物で且つ皆良いもので、比較しにくい側面もあったが、商業ベースとそうでないものという点を考慮させていただいた。 ・ 「行田らしさの視点」「自然とやすらぎの視点」「美しいまちづくりの視点」の3つの視点から見た。年月は経っているのだけれども、そこに手が加えられている部分で、少し残念だったかなという建物も多いように感じた。 ・ これからの行田のまちづくりに対する大きな課題として、歴史的なものに手を加える場合には、何らかのアドバイスがあるとか、そういう相談機関が市の方にもあれば、より良いまちづくりが今後行なわれていくのではないかな、という感想を持った。歴史的なものが周囲の景観と溶け合い残っているということは、大変な努力があつてのことではないかと思う。⑤『横田酒造(株)』などは、通りに面して立地的には良い場所だと思うし、スケールとしても非常に大きくて良いと思うのだけれども、修理をする際などにはどうしても取り替えなくてはいけない部分も出てくる。そういった際に、市の援助なり相談機関が今後は必要ではないかなと思った。
<p>今村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の応募が6件、そのうち5件が一人の応募によるもので、「助かったな」というのが今の率直な感想だ。まだまだ景観賞そのものの周知が行き届いていないのかなと。委員をやっている手前、市内を廻る際などに目は向けているが、まだそれが市民の手のところまで、動きとして出てこないという実態が感じられる。もし今回、この方の応募がなければ、大変な審査になっていたところだなと思った。やはり市民にどう知らしめていくかが課題だと痛感した。

唐沢委員	<ul style="list-style-type: none"> 私が所属するボランティアグループの方々に、是非見に行ってみて下さいと宣伝したところ、早速見学してくれた方がいたが、やはりそのような形で少しずつ伝播していく必要があるのではないかと思います。そして多くの市民の方々に関心を寄せていただいて、より多くの皆さんに「景観」というものに目覚めていただけると、もっと素晴らしいまちにしていけるのではないかと思います。 私は、周辺との調和や、建物そのものが醸し出す雰囲気などが、そこに住んでいる人や地域に対してものすごく違った印象を与えるのではないかと考え、その辺りを念頭に置いて見てみた。
木暮委員	<ul style="list-style-type: none"> 「行田らしさの視点」からは⑤『横田酒造(株)』が、「自然とやすらぎの視点」からは②『彩々亭』が、「美しいまちづくりの視点」からは、昨年度の応募であるが⑨『武蔵野銀行』が良いと思った。 難しいのは「景観」ということ。建物自体は良いとして、「ではこれが周囲に合っているか」となると、本当に満点というのはなかなか付けられない。今回まわってみて、「こうなってしまったのか」「こうなってしまいう前に」と感じる機会が少なからずあった。そう考えたとき、この景観賞が持つ意味というものは非常に大きい。「こうなってしまって残念だ」となる前に、しっかりと景観に対する認識を広め、市民全体の意識を高めて、大事にする心を育てることが一番大切なことだと感じた。
朽木委員	<ul style="list-style-type: none"> この選考に参加させていただいて3回目となるが、そろそろ、目の前にあるものを選ぶというよりは、選んだものを次にどう伝えていけるかという「戦略的な見方」について、頭に入れておくことも必要なのかなと考えている。我々、審査する側にも、つい「立派さ」であるとか「威厳」であるとか、そういった部分に押されてしまっていたところもあったかな…という思いもしている。これからはもう少し、積極的にアピールしやすいものを選んで、今後、行田市の景観賞がもっと良い方向に進んで、景観というものに対して市民の皆さんが関心を持ってくれるような方向に発展して欲しいという視点から、今回見ていた。

	<p>細評</p>
八代委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひと通り総評をしていただいた。もう少しの間、個々のものについてもご意見を伺ったのちに、審査に入りたいと思う。筒井委員から願います。
筒井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りにマッチしているかどうかを重視した。⑥『SAKURAGARDEN』の入口にあるブロック塀は、私の目には引っ掛かった。ない方が良い。また、オムライスで真黄色の看板というのも、私は良くないだろうと思う。あれがマッチしているという解釈があるのだろうか。そういう点も気になったところだ。 ・ ④『蔵一山』については、敷地が囲まれてしまっていて中に入っていかなければ建物が見えないという点や、店の大きな看板が良くないと思った。周辺を見て、建物だけ良ければよいという感じをどうしても受けてしまった。 ・ 個人的にはそういう点が気になってしまった。②『彩々亭』の看板のように、一見何だかわからないような程度の方が本当は良いのかなと思うのだが、ただ商業ベースとしてそれがよいのかという議論は、また別の話としてあるのだが…。私の感想はこんなところだ。
滝沢委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ①『十萬石』は、典型的な店舗様式と言ってしまってよいかどうかはわからないが、塀がプラスチックのような素材で作られているなど、せっかく良い景観の要素を後背に持ちながら、そういったものを上手に取り込みながら店舗を生かすという視点が、ちょっと欠けていたのかなと…。他店舗との差異をあまり出せなかったのかな、という点が残念だった。 ・ ②『彩々亭』については、その奥まったところが良くて、従来の歴史を上手に活かしていると感じたが、同じくこちらも入口のところで、塀を本物の竹を使わずに竹を模したプラスチック素材にしている点ももったいないなど。 ・ ④『蔵一山』は、⑤『横田酒造(株)』と隣接していて景観の要素には恵まれているのだが、後者と比べると自然とそちらに軍配が上がるのかなと。やはり⑤『横田酒造(株)』の現状ある魅力、建物自体の魅力、看板…色々あるが、それでも、営業的にどうしてもサッシを入れなくてはならないとか、

<p>今村委員</p>	<p>そういう点があっても頷けてしまう。行田市にあのような場所があるという ことで、今後の可能性に非常に期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ⑥『SAKURAGARDEN』については、ミスマッチではあるけれども、これからはああいうものもありなのかなと思った。古いものに対して、キューブなものを感覚的にパカンと付けてしまう、そういった建築の方法もあるのかなと。 ・ ⑦『高窓のある農家』については、高窓という特徴を意識して、あのよう に改築されたということは非常に良いことだと思う。やはり住んでいる人 がそこに誇りを持って、従来の建築の意識をほんの少しでも、片鱗でもよ いから残していく。そういう姿勢は非常に良いと思う。 ・ ⑧『国道沿いに佇む豪邸』については、こちらも修復はしているけれども、 構造的な面白さを大事にして残していると思った。 ・ ⑨『武蔵野銀行』は、建物自体は素晴らしく、中に入らなかったのは残念 だったなど、今になって思うのだが、歴史ある建物なので中も見たくなる。 またちょうど角にあるので、あの辺りで非常にムードがあると思った。 ・ ⑩『忠次郎蔵』は素晴らしいと思った。特に、ちょっと奥まった場所があ るという点で、そこにフワッとした空気が生まれて、建物だけ正面から見 ただけではない雰囲気があるところが、とても良いと思った。 ・ 今年の景観賞として選ばなければならないのは、やはり②『彩々亭』かな という気がしている。ここは評価を高くした。ただ、次がなかなか選べな い。その中で一番良かったのは⑦『高窓のある農家』なのだが、私は毎日 仕事の行き帰りに往来していて、人が出入りしているところを見ていたの で、住んでいるのかなと思っていたが、実は誰も住んでいないということ で…。誰か住んでくれていた方が評価を高くしたのにと残念に思う。年間 300日くらいはあの脇を通っていて、よく手入れされているようで生垣も 昔からあのままだし、非常に良かったのだが。あとは、昔からの建物を上 手く活かしている⑩『忠次郎蔵』も評価を高くしてよいのかなと。そんな 感じだ。
<p>唐沢委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 印象に残ったのは②『彩々亭』だ。③『古代蓮物語』も、広々とした感じ

<p>木暮委員</p>	<p>が個人的には好きである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ④『蔵一山』はちょっと残念な気がする。あの囲まれた感じと、中の倉庫みたいな建物をもう少しどうにかすればよいのではないかと。 ・ ⑤『横田酒造(株)』は、板塀の家と、それから下が板で上が漆喰の塀が、もしかすると昔の行田は皆あんな感じだったのではないかなと、そう思われた。 ・ ⑥『SAKURAGARDEN』は、ただ広いだけで潤いがないように感じられ、ちょっと息切れしたかなという感じ。 ・ ⑧『国道沿いに佇む豪邸』は、周りが駐車場で、その中にポツンとあるという状況が、何というか非常にもったいないというか、何とかならなかったのかなという感じがした。 ・ ⑨『武蔵野銀行』は、行田でも昔は石造りのものがあつたはずなのだが、皆壊れてしまったというか、なくなってしまうている。清善寺のすぐ近くにも、旧中央公民館というものがあつたのだが、ここも壊してしまった。そういう意味では、ここは他が壊れてしまった後も残った希少な石造りの建物なのだと思う。 ・ ⑩『忠次郎蔵』は、手作りのガラスや家の構えが良いと思った。 ・ 浮き城のまち景観賞でまちをつくるということで、まちをどのようにつくるかということよりも、これからの行田のまちをつくる時に、こんな感じで建てたいということで、新しいものを個人の方が建てる。そういうものを本当は選びたいと思うのだけれども、今回も審査の対象となったのは古い建物だけである。でも、しばらく「こういうものが良いんですよ」という基準で選んでいけば、いずれは新しい建物の中からも、それに近づけようとするものが出てくるのではないかと。それを期待して待ち続けたい。 ・ 逆に「このようにだけはなあってほしくない」というのが、⑧『国道沿いに佇む豪邸』だ。本当に素晴らしい建物なのに「ああ、もっと前からこの賞があれば、こういう状態にはならなかったかもしれないのに…」と残念に思う。 ・ 景観賞に選定して、それがどの程度の効力や制約を持つのか、今後はその
-------------	---

朽木委員

辺りが課題になってくるかなと思った。

- ・ 「景観」ということで考えたとき、建物単体で④『蔵一山』とか⑤『横田酒造(株)』というような捉え方ではなくて、一連の蔵を持ったあの一带の街並みというか、そういった雰囲気をつかえて、そして感じているのだと思う。個々のもので見ると、蔵一山のあの大きな看板であるとか、横田酒造の方でも、外から見たときに中の方に雑多なものが見えるという、そういった部分もあるのだけれども、あのボリュームが持つ、蔵がたくさんある田舎の造形、風景というのは「こういうものを残しておいてほしいな」と感じさせられるものがある。もし、我々が与えられるお墨付きで、市民の皆さんにも同じように感じていただけるのであれば、中はどう使おうが、ああいうものは残しておいてほしいなと思う気持ちを強く持つのだ。
- ・ ②『彩々亭』は、建物に近づくと看板も小さくてよいのだけれども、駐車場の方には近ごろ看板が増えてしまったような気がして、それがちょっと残念に思う。もし、仮に賞を差し上げたときに、講評の中でそういう一文が加えられると、我々がここを選んだのはそういうことを期待しているんですよ、というメッセージも伝えられるのかな…とも考えた。また、もつとこの賞を市民に知っていただくという意味合いから、実はあれが行田市で登録有形文化財の第一号となったのも、我々の NPO 活動によるものなのだが、「登録有形文化財」という制度があって、これはそういうものに値して、しかも守っていくべきものなんですよ、というお墨付きが見えることを重視して進めた。そういうものを知っていただくという意味では、すごく大きいなと思って。ただ、これが市民に知っていただくためとなると、果たして盾を贈るやり方というのが適切かどうか。盾には個人を称えるものという印象を持つ。「これは行田の景観賞を受賞した建物です」ということが、通りからも何気なく見ることができるようなもの、それが逆にまちを壊したらいけないのだけれども、そういったものが贈れると…。今後のあり方の一つとして考えた方が良く思う。

八代委員長

- ・ ひと通り意見が出揃った。私からも一つ言わせていただきたい。私も、筒井委員が指摘されたように、やはり建物そのものだけを見るのではなくて、

筒井委員	<p>周りといかにマッチしているか、という要素が大切だと思いながら現場を見て回った。具体的には、出来るだけ建物から距離をとって見る、歩道の方まで引いて見るという形だ。駐車場や看板がどのように見えるか、出来れば周辺一帯も含めて、向こう三軒両隣ではないけれども。そういったものまで含めて評価しないと、やはりどうしても細く？なってしまうのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 私は特に駐車場を見ていた。というのも、行田は通過交通のまちで、人はどこにも寄らないでそのままどこかへ行ってしまう場合が多いからだ。そうしたところ、一面アスファルトというパターン、即、アスファルトというパターンがとても多かった。そこへいくと、③『古代蓮物語』については、過年度の応募作品ではあるけれども、植栽等を配置してワンクッション入れている、建物の高さも低いし、そういう意味では、今回見た中では印象を良く持った。・ あとは大体、皆さんが言われたのと同じような感想で、例えば⑩『忠次郎蔵』などは大変良いと思うが、あの蓮花寺通り、アイストップにお寺があって、それから反対の方向には蔵があって、その中に一つ、忠次郎蔵があって、その向かい側にはトタン板張りの蔵があるという、そういう周りの雰囲気も全てひっくるめた「景観」としてやっていかないと、やっていった方がよいのかな、という感じがした。そのようなことを私は思った。・ 何か他に付け加えることがあればお願いしたい。筒井委員いかがか。・ 県で実施している景観賞でも、最近、委員の先生方から、とにかくもう建物の表彰はやめて、もっと周りを見て、周りとの調和と、あとはいかに緑を使っているか、そういうところに観点を置きましょうということで、今年あたり随分と審査の雰囲気が変わってきた。以前は、それこそ大規模な建築賞といった感じだったのだけれども、最近は大規模なものはほとんど落とされて、緑部門みたいなものが増えたという感じがある。また、大規模なもの、良いものというのは、お金さえかければ出来てしまうわけで、だからそれを表彰するのは違うのではないか、という考えが出てきた。「建築賞」ではなく「景観賞」なので。建築賞であれば、そういう制度は別に
------	--

八代委員長	<p>あるので、景観というのはあくまでも周りとの調和という点を含んだ「見た目」なので、そういう部分でちょっと変わってきているのかな、という感じを受ける。景観と、それから「環境賞」に近い雰囲気になってきているのかなと。県の考え方と審査委員の先生方の考え方が、違う方向を向ってきている。参考としてお伝えしておきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私も、対象が一つの図に収まるというか、常に周りとの中で見た方が良いということをととても感じた。現地を見ているとどうしても、どんどん中に入って行って話を聞いて「ああ、そうだったんですか」と、それで引きずられてしまう。 それでは、そろそろ投票に入りたいと思うが、一度投票してみて、その結果を見て最終決定ということでも良いし、その前に何か一言加えることがあれば今伺っておきたいが。 <p>(特になし)</p>
八代委員長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、これから投票に移る。推薦票に氏名を記入し、景観賞に値すると思うもの3作品をご記入いただきたい。記入が終わり次第、事務局が回収し、ホワイトボードに掲示した模造紙に結果を示させていただきます。 <p>(記入終了)</p> <p>(結果の張り出し) ※別紙参照</p>
八代委員長	<ul style="list-style-type: none"> これを見ると、一つは⑤『横田酒造(株)』で決まりかと思う。こちらを一押しされた方が多かったということだが、あえて反論を述べていただける方があれば、逆にその方が面白い面もあるので、「いや、全体のバランスを考えるとこちらの方が良いのではないか」とか、そういう意見を聞いてみたい。一言ずつお願いしたい。
朽木委員	<ul style="list-style-type: none"> 私の場合、⑩『忠次郎蔵』に関わっているので、なるべく審査の間では関わらない方が無難かなという判断で、忠次郎蔵には投票しなかったのだが…賞をいただいてもいただかなくても、行田のまちの景観に寄与しているという自負はある。 彩々亭の方も、登録有形文化財となったこともあり、そのあたりは十分理解されているようで、支配人の方ともよくそういう話をする。

木暮委員	<ul style="list-style-type: none"> どうしても商業施設なので、道路側の看板が増えてきたりなどの側面もあるが、彩々亭の場合は、借景として後背に水城公園のあれだけの緑があるので、景観賞を授賞したときのコメントの中に一言、「もうちょっと道路側にもそういうものを持ってきたら、より行田のまちに寄与するのではないですか」というような形でお知らせできたらと思う。
唐沢委員	<ul style="list-style-type: none"> 彩々亭は行田の宝だと思う。その周りの緑が持つ意味も含めて「景観だな」と思う。
木暮委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は彩々亭には入れていないのだが、というのも、やはりちょっと奥まっている感じがあって、他の3つと比べるといささか落ちた印象があったためだ。ただ、それ以外を考えると良いものなので、まあ良いかなと思う。
今村委員	<ul style="list-style-type: none"> 彩々亭の選定には、水城公園の中で散歩している側からの景観を考えて、神社を含めてその景観を壊したくないな、という意味合いも込めてみた。
滝沢委員	<ul style="list-style-type: none"> 古いものを残しているという点はやはり評価しなければならないのかなと感じているが、古いものを残していくということは、やはりああいうふうになるのかなという感じがする。周りの外観のバランスがちょっと悪かったのかなと。 私は⑦『高窓のある農家』に投票した。というのは、あれだけの屋敷林を残すのは大変なことで、大抵の場合、管理や落ち葉の処理などが大変であるといった理由で切られてしまうことが多いからだ。そんなわけで、後々に残してもらうためにも是非、景観賞を贈りたいということで選定した。 古いものを残していくためには、朽木委員が活動されている NPO 法人が⑩『忠次郎蔵』を運営しておられるが、そういった活動が非常に大事になってくるだろうと感じている。そういう意味で、評価を高くしてよいのではないかと考える。
滝沢委員	<ul style="list-style-type: none"> 彩々亭は、本当にもう完成されている。醸し出す時間とか流れる空気などという話も出たが、そういう点からも素晴らしいと感じた。そして、⑤『横田酒造(株)』の周囲に漂う行田らしさの雰囲気と比べて、どちらが良いかなと考えたときに、今後の可能性も込めて⑤『横田酒造(株)』を上位にした。

筒井委員	<ul style="list-style-type: none"> 私は、単純にこの結果のままで良いと思う。⑤『横田酒造(株)』・②『彩々亭』の組み合わせでA・Bをつけた方が4人いらっしゃるわけで、これはもう過半数だ。よいだろう。
八代委員	<ul style="list-style-type: none"> 私はいつも少数意見の方を見るが、というのは、そちらの方が面白い視点を含んでいて貴重な意見が出るからだ。⑩『忠次郎蔵』については、⑨『武蔵野銀行』もそうだが、どちらももう「行田の顔」であることに変わりはないので、いずれ何らかの形で、行田らしいやり方で景観賞をお取りになると思う。そのやり方を上手にしてあげた方が、全体として得のような気がする。 今回の授賞も2作品となるわけだが、「武蔵野銀行も忠次郎蔵も取れない景観賞」を取ったという、その2つは誰もが行田の顔だと思っているわけで、そういう意味で、他に譲るようなことがあるということかなと感じている。 それでは、この2作品を授賞することで宜しいか。 (異議なし)
八代委員長	<ul style="list-style-type: none"> これで決定した。これをもって議事が全て終了したので、議長の職を下ろさせていただきます。 最後に2点ほど、事務局に注文させていただきたい。1つ目が、「浮き城のまち景観賞」の前に「第〇回」という形を付けていただいた方が良いと思う。そうした方が「ああ、あそこか」とイメージが沸くし、PRにもなる。2つ目が、事務局から説明をいただければと思うのだが、我々の任期が2年となっているので、今後どのようになるのかをお聞かせ願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1つ目は了解した。2つ目として、任期が平成20年1月23日をもって満了する形となるが、市としても景観賞は引き続き行なっていきたいと考えている。任期を途切れなくお願いするのかなど、色々なやり方を模索しながらやってきたので、また改めて皆さんにお願いするのか、いつの時期からお願いするのかなど、後日改めてご報告させていただきたいと考えている。 なお、表彰式を来年早々にも開催したいと考えている。日程等の都合で任期が切れた後となってしまうと思われるが、委員の皆さんにはせっかく審

司会	<p>査いただいたということで、出来れば是非、表彰式の方にもご出席をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none">• 最後に、今後のスケジュールについて説明させていただく。事務局からの説明のとおり、表彰式を年明けに予定している。日時が決まり次第、文書にてご案内させていただく。• これをもって本委員会を閉会とさせていただく。
----	--